

「神の居場所はどこに」

ルカ 2:1-7

【1】序

ルカの福音書を読むときのポイントは、キリスト誕生にはじまる神の救いの歴史にある。神のご計画が時が満ちて成就していくことを意識して、ルカは歴史に注目しながら筆を進めている。キリストの誕生は歴史的事実である。ルカは福音書において単に道徳的な講話や宗教的神話の編集をしているのではない。ルカが記録しているのは、神が人類の救いのためにキリストにおいて実際にこの地で行われた出来事である。

【2】アウグストゥスの勅令

2章においてローマ帝国への言及がなされている。救い主誕生の出来事は、地中海世界におけるローマ帝国の支配という歴史的、政治的な文脈の中で起きたということである。当時のローマ皇帝はアウグストゥスである。彼は皇帝の中でも屈指の権力を握っていた。アウグストゥスとは「尊厳者」の意味を持つ称号である。彼は、地中海世界において神と称されていたのである。

ルカはこの福音書においてアウグストゥスを神と崇める人々に向かって、イエス・キリストこそが世界の救い主、世界に平和をもたらす真の主、真の神なのだと告げているのである。このことははじめから救い主はダビデ王の家系から生まれると告げていることからわかる。この記述はローマ帝国にとっては挑戦的な書き出しなのである。

アウグストゥスの鶴の一声によってなされた住民登録であるが、その力はユダヤの小さな町々にも広がり、貧しい一組の男女も例外ではなかった。

しかし、この命令によって神の預言が成就したのである。ついに、とき満ちて救い主が生まれる舞台が整えられたのである。旧約の時代から救い主はダビデの町、ベツレヘムで生まれると伝えられていたのである。ここに神の摂理を見る。

【3】彼らには居場所がなかった

俳優のロバート・デ・ニーロが役作りのためホームレスになりきり路上生活を体験したとき、自ら所有するホテルに帰ってきたものの宿泊拒否をされたという逸話がある。これと同じような出来事が今から二千年前に起こったのである。マリアとヨセフに生まれた男の子は宿屋のオーナーどころか、全世界の造り主にして支配者であった。しかし、この方には生まれ落ちる居場所さえなかったのである。

確かに当時の人にとっての家畜小屋は貧しい場所であった。が、だから救い主が貧しくなられたということではない。主が人となられたことに神の謙卑を見るのである。私たちはこの出来事の前に悔い改めへと導かれる。イエスこそ、人々に受け入れられず、拒絶されながら私たちの罪重荷を担ってくださった神のひとり子なのである。

神は私たちから遠く離れたところにおいて眺めておられるお方ではない。神は自ら貧しくなられ、人々の間に住んでくださったのである。この方こそ「インマヌエル」(神が私たちとともにおられる)の名にふさわしいお方である。

イエスはその生涯のはじめから貧しい者の姿で私たちの間に住まわれ、私たちの居場所となられたのである。私たちは神の御前に近づくことはできないかもしれない、しかし、神は私たちの近くにいられたのである。